

平成22年 第1回木津川市議会定例会 施政方針

平成22年第1回木津川市議会定例会の開会にあたりまして、平成22年度の市政運営に対します私の所信を申し上げます。

市民の皆様とともに市政を歩み、市長就任後3年が経過しようとしています。私は、就任以来、常に「クリーンで誠実な心のかよった市政の実行」を、基本姿勢としてまいりましたが、締めくりとなる今年度は、さらなる業務改善に取り組み、市民の皆様から信頼いただける、市政の推進に邁進することを、改めて決意をしたところ です。

平成23年度からは、さらなる権限移譲により、府から事務が移譲され、権限が増えてまいりますが、平成22年度は、まさにその準備期間となります。そして、権限が増えてまいりますと、当然責任も大きくなり、地方分権の流れともあいまって、市民の皆様にもっと近い基礎自治体として、より一層の「責任と自覚」を持って市政運営を進めていけるよう、行政体制の整備に努めてまいります。

1. 市政運営の基本的な考え方

市政運営の基本的な考え方を申し上げます。

現在は、未来の子どもたちからの預かりものであると、私は考えています。私たちが、今、まさに取り組まなければならないのは、過去の負担を未来の子どもたちに押し付けるのではなく、未来をきっちりと見据えつつ、今、必要な手立てを講じることだと考えています。その前提となる3つの視点について述べさせていただきます。まずは、財政運営です。

本市では、平成20年度から「持続可能な財政運営」を目指すため、行財政改革行動計画(アクションプラン)を進めております。

平成21年度は、事業仕分け、事務事業評価や広報きづがわの紙面を利用して「子や孫の未来につなぐ」シリーズの掲載などに取り組んでまいりましたが、一昨年後半からの世界同時不況と、それに伴う円高の様相が進行するにつれ、本市でも、個人・法人市民税の落ち込みが見込まれております。

このような状況にありまして、市民の皆様の負託に応えていくためには、各種の事業や施策の見直しによって財源を生み出すことが必要不可欠となります。そのため、継続して、事務事業や施策のあり方を精査し、見極めることによりまして、より優先度の高い事業に財源を振り分けていきたいと考えています。

続いて、市民の力です。

木津川市の地域資源とはいったい何でしょうか。私は、わがまちの一番の魅力は、まさに“人”そのものではないかと考えております。

木津川市には、歴史や自然、文化を守り、活かそうとする、この地域を愛してやまない方々がたくさんいらっしゃいます。

平成 22 年度は、平城遷都 1300 年祭、第 26 回国民文化祭を開催してまいります
が、実行委員会から、素晴らしいアイデアをいただき、最終的には 9 つの事業を開
催できる見通しが立ってまいりました。

木津川市という新しいまちを想う人々。

これからは、これまで以上に、こうした“市民の力”なしには、市政運営は成り立た
ないと考えています。

「自分の住んでいるまちをどのようなまちにしていくか。」を考える市民の皆様一人
ひとりと向き合い、市政を運営してまいります。

最後に、環境問題です。

世界をつなげる合言葉、「MOTTAINAI(もったいない)」。

これは、ノーベル平和賞を受賞したワンガリ・マータイさんが、感銘を受けた「もっ
たいない」という日本語でした。

この言葉は、私たちが次の世代に、より良い環境を引き継ぐために何をすべきか
を問うものです。

私たちは、この自然環境を次の世代に引き継ぐとともに、この環境は、私たちの先
輩方が懸命に取り組んできた成果であります。

今後は、市民の皆様と共に、地球規模で考え、身近なことから一歩ずつ着実に取
り組み、次の世代により良い環境を引き継いでまいります。

2. 平成 22 年度主要施策

平成 22 年度の新規事業を中心に、主要施策について私の考えを申し上げます。

1 つ目は、「誰もが安心して暮らせる福祉都市の創造」です。

まずは、健康です。

健康予防対策の取組みについては、京都府山城南保健所とともに健康増進計画
を策定し、健康増進事業を実施していく際の指針として、活用してまいります。

また、平成 20 年度の健康増進法の改正に基づきまして、肝炎などの早期発見の
ための健診を継続して実施しております。このような地道な取組みが、医療費の適
正化に繋がるものと期待をしているところです。

続いて、健康の源となる“食”について、です。

学校給食センターでは、物資の高騰など、学校給食を取り巻く状況の変化に対応

するため、学校給食地場農畜産物拡大推進計画の事業を推進しております。平成 22 年度中におきましては、特定の 5 日に地元産利用の割合を 5%以上増加させるといった取組みを進めていくことにしております。

また、食あるいは食育につきましては、子どもたちの発達にとりましても非常に重要な取組みであると、考えております。今後は、保健、教育、保育などの関係者による議論をもとに、市民や事業者の皆様にも加わっていただき、食育推進計画を策定できるような体制づくりに努めてまいります。

続いて、高齢者の見守りや高齢者への施策について、です。

高齢者の皆さまの多くは、住み慣れた地域で、安心して過ごしたいという願いをお持ちです。

木津川市では、災害時における地域での見守りや支援体制づくりとして、災害時に援護が必要と思われる対象者に向けまして、災害時要援護者台帳の整備を進めております。平成 22 年 4 月を目標に、台帳を完成させていきたいと考えております。

2 つ目は、「豊かな心を育む教育・文化の創造」です。

まずは、子育て環境の整備です。

木津川市では、現在、平成 22 年度からの 5 か年計画である次世代育成支援地域行動計画の後期行動計画を策定する作業を進めております。また、施策の推進方向として、地域における子育て支援をはじめとして、7 つの施策が盛り込まれておりまして、木津川市として「子育て支援ナンバー1 のまちづくり」が達成できるよう、この計画をとりまとめまいります。

この内、平成 22 年度の具体的な施策につきましては、地域子育て支援拠点事業として、「つどいのひろば事業」を拡充いたします。

地域における子育て支援拠点の設置を推進し、地域の実情に応じた、きめ細かな子育て支援を提供してまいります。

次に、待機児童の解消に向けて、民間保育所設立運営法人の募集を進めてまいりましたが、平成 22 年度から新たに『なごみ保育園』が設立されることになり、木津川市といたしましても、保育園の設置費用も含めまして、入所する児童への委託料や運営補助を行ってまいりたいと考えております。

次に、放課後児童クラブの充実です。現在、市内 12 箇所 900 名の定員で実施しておりますが、平成 22 年度からは 6 箇所を新たに増設し、18 箇所で開催していくことにしております。

また、民間放課後児童クラブの設置準備も同時に進めておりまして、平成 22 年度からは梅美台保育園となごみ保育園の 2 箇所を新たに設置してまいりたいと考えております。

次に、病後児保育委託事業の実施です。

保護者が仕事などで、自宅でケガや病気の児童の看護ができないケースが増えてきております。そこで、病院の医師や看護師・保育士がいる環境で安心できる療養環境と保育・看護を同時提供できる病後児保育委託事業を平成 22 年度から公立山城病院でスタートさせてまいります。

次に、学校の耐震化について、です。

耐震化が必要と考えられる学校施設が 5 校ございまして、これらの学校が、地震、水害などの災害時の指定避難場所となっております。平成 22 年度では、相楽小学校・上狛小学校・木津中学校の耐震補強に向けた工事や設計を進めていくことになっておまして、今後も、順次全ての市立学校において、耐震補強工事・改築工事を推進してまいります。

次に、学校給食センターの新設について、です。

これまで、給食未実施校であります泉川中学校の学校給食実施に向けまして、加茂学校給食センターの建設を進めてまいりました。いよいよ、準備も整い、この春から開設の運びとなっております。

次に、加茂図書館の統合新設について、です。

加茂支所庁舎を有効に利活用するため、加茂小学校と南加茂台公民館に設置しておりました加茂地域の図書館を加茂支所へ統合し、利便性の向上を図ることにより、地域の活性化にも資するのではないかと考えております。なお、新設オープンの時期といたしましては、5 月 1 日を予定しております。

3 つ目は「環境と調和した持続可能なまちの創造」です。

まず、地球温暖化対策について、です。

本市では、市役所が行っております事務事業を対象に、温室効果ガス排出抑制計画を策定し、公表してまいりたいと考えております。平成 21 年度を基準年度とし、最終年度である平成 26 年度に、温室効果ガスの排出量が実行計画に盛りこんだ目標の削減値まで実践できたかを検証してまいります。

また、こどもエコクラブの事業では、エコクラブ参加メンバーや市内在住在勤のみなさまを対象として、環境施策等に積極的に関与していただける人材の育成や発掘を行っております。この事業の中では、緑のカーテンパンフレットの作成やグリーンカーテンプロジェクトなど、市民とともに、積極的に啓発を進めているところでございまして、今後は各家庭への拡がりを勧めてまいります。

続いて、関西文化学術研究都市における市内研究所での取組みについて、です。木津川市には、研究所が多く立地していただいております。その中でも低炭素社会を実現するための研究や事業所そのものが環境負荷を与えないような配慮をされておられます。

積水ハウスでは、大阪ガスと共同で、燃料電池・太陽電池・蓄電池を組み合わせたスマートハウスの実証実験を兜台にあります総合住宅研究所にて、1月からスタートされました。

また、オムロンでは、木津川台の京阪奈イノベーションセンター内で実験用太陽光発電システムを設置し、開発する機器の有効性を検証するための実験を行ってまいります。

さらに、木津川台にある財団法人地球環境産業技術研究機構では、国内外の産学官との連携のもとで、地球温暖化対策における中心課題である二酸化炭素の削減に向けた研究に取り組んでおられますし、アタカ大機では相楽台にある環境研究所で水処理や土壌・大気・ゴミ処理など、総合的な環境問題の解決に向けた研究に取り組んでいただいています。

このように環境を守る取組が、地道な研究活動によって支えられていると、実感しているところです。

続いて、クリーンセンターについて、ですが、清掃センター建設審議会を設置し、昨年5月29日の第1回審議会におきまして、ごみ焼却場木津川工場の建設候補地の選定について諮問いたしました。そして、去る2月8日の第8回の審議会におきまして、同審議会の和田会長からごみ焼却場木津川工場の建設候補地の選定に関して、答申をいただいたところです。

今後は、審議会で示されました多くの意見を踏まえつつ、市民にとりまして、クリーンで役立つ施設として一日も早くクリーンセンターの建設・稼働が実現するよう努めてまいりたいと考えています。

4つ目は「個性を活かした魅力ある地域文化の創造」です。

木津川市のまちの魅力発信や情報発信について、です。

平成22年は平城遷都1300年祭にあわせまして、木津川市といたしましても、歴史的なつながりをもった内容を踏まえた各種イベントを開催すべく準備を進めております。また、今年度に国の元気再生事業を活用した奈良から浄瑠璃寺への急行バスを、期間を限定して運行しておりましたが、平成22年度からは通年化することで、まちの魅力発信に努めてまいりたいと考えています。

さらに、まちの魅力や情報の発信元として、昨年12月に新たな観光協会が発足いたしました。この協会が今後、各種イベントに中心的な役割を担っていただけるよう、適切な負担金を考えておきまして、公共的団体の新たな運営手法のモデルにしていきたいと考えております。

5つ目は「地域力を活かした産業・事業の創造」です。

まず、中小企業向け融資の継続について、です。

京都府中小企業融資制度のうち、中小企業特別融資制度信用保証料及び利子補給事業につきましては、利子補給金要綱が今年度をもって失効することになっておりましたが、一昨年以降、世界同時不況による景気の低迷など、昨今の経済情勢を勘案し、本市では、3年間の延長実施を行い、引き続き市内中小企業者への支援を継続してまいります。

続いて、企業立地の促進について、です。

関西文化学術研究都市と全国に誇れる歴史遺産・豊かな自然環境を活かした「企業立地」に取り組んでおまして、市内の雇用機会の拡大と、税収の増加に向けて、私も先頭に立ちながら、取り組んでいるところです。

国内景気の急速な悪化もありますが、木津川市になりましてから、企業立地促進制度によりまして、誘致が成功いたしました件数につきましては、4件です。

また、企業立地促進法に基づく基本計画づくりを関西文化学術研究都市全体で進めていこうという機運が広がっておりまして、関係機関による協議を重ねながら、国の同意を得てまいりたいと考えております。

この基本計画が策定したあかつきには、研究所の誘致だけではなく、ものづくり産業も集積する都市を目指し、高い付加価値と、裾野が広く波及効果が期待できる業種を軸に、積極的に誘致活動を行ってまいります。

6つ目は「連携を強め地域を支えるネットワークの創造」です。

厳しい財政状況が続く中で、都市の基盤づくりは必要最小限の事業に絞り込んでまいりました。

まず、木津駅前土地区画整理事業について、ですが、これまで19年間にわたり事業を進めてまいりましたが、いよいよ平成23年度で事業を完了するめどが立ってまいりました。今年中には駅前広場や公園など基盤の整備が進み、中心都市拠点にふさわしい“まち”の顔が、誕生する予定です。

さらに、木津中央地区などの開発事業の進捗に合わせまして、木津駅の東口で暫定的となっております駐輪場を、今後2か年をかけ木津駅東地区整備事業として整備してまいります。

続いて、都市計画道路の整備促進について、ですが、広域道路網の整備として、東中央線の整備につきましては、開発中の木津中央地区から鹿背山を経由し上粕までの全長1,100mであり、実施主体は京都府ですが、事業の実施にあたりましては、昨年度に引き続き、円滑に事業が進みますよう木津川市としても協力してまいりたいと考えております。

一方、同じく木津中央地区の西の玄関口となります天神山線につきましては、事業の進捗が遅れてきている現状です。今後も、関係機関とも連携を密にしながら、早期事業化に向けまして努力してまいりたいと考えております。

続いて、下水道事業につきましては、新たに木津川市汚水処理施設整備基本構想を策定することにしております。公共下水道整備には長期の期間と多額の先行投資を必要とすることから、これまで以上に財源の確保や事業の効率性、効果性、経済性が問われ、公共下水道と合併浄化槽の経済比較のほか、整備時期や市の財政力を勘案し整備手法の検討を行い、最適な汚水処理計画の枠組みを定めてまいります。

続いて、地域公共交通の検討について、です。

地域公共交通のうち、コミュニティバスの検討につきましては、現在、木津川市地域公共交通総合連携協議会を立ち上げるなか、国の地域公共交通活性化・再生総合事業を活用しておりますが、国等からの財源に頼らない持続可能な運行体系の構築に向け、路線再編や運行の見直しについて検討を進めてまいります。

最後は、「まちづくりへの参画と創造」です。

まず、市役所の窓口延長について、ですが、これまでから、窓口の時間延長又は土・日の開庁を求める声が寄せられてまいりました。その要望を受け、平成21年4月から市民年金課のみ毎週月曜日に窓口延長を実施しておりましたが、来月の23日からは住民異動のもっとも多い時期であります3月下旬から4月上旬までの期間について、窓口の時間延長を、土曜日を除く全ての曜日で実施し、さらに利便性の高いサービスを提供してまいります。

続いて、山城支所の改修について、ですが、山城支所につきましては、これまでから耐震化について、様々な議論がなされてきた訳ですが、現在進めております支所のあり方をできるだけ早く取りまとめ、支所庁舎の改修に係る設計を進めてまいります。

3. 平成22年度予算

次に、平成22年度の予算について申し上げます。

本市の財政は、歳入につきましては、景気の急速な悪化に伴い、個人・法人ともに市民税の大幅な減少が見込まれるうえに、歳出につきましては、高齢化の著しい進行などによって扶助費が増加しており、公債費も依然として高い水準で推移するなど、極めて厳しい状況に直面しています。

予算編成にあたりましては、このような状況を踏まえ、本市行財政の改革に向けた取組に加え、事務事業のスクラップ・アンド・ビルドに努めてまいりました。

取組につきましては、高齢者福祉手当や節目人間ドックの割増助成等の事業を見直し、一方で、後期高齢者医療制度の人間ドックの助成や厳しい運営を迫られている国民健康保険特別会計への一般財源の投入、さらには高齢者施策の推進に

努めてまいります。また、学校の耐震化など、今日的な課題に対応してまいります。収支不足対策につきましては、投資的経費をはじめ、歳出全般において経費の縮減に努めておりますが、それでもなお、本市の一般会計予算案では22億円もの市債や11億円もの基金を活用しなければ収支不足が解消できず、平成22年度末の財政調整基金の残高見込みは約25億円という状況にあります。

予算額につきましては、

一般会計 230億 6,100万円

特別会計 141億 1,916万4千円

合計 371億 8,016万4千円

となり、前年度と比較いたしますと、予算総額で3.6%の増加、一般会計におきましては、3.7%の増加となっております。

4. 平成22年度施策の推進にあたって

次に、平成22年度施策の推進について、です。

冒頭でも申し上げましたように、本市は平成19年3月12日に合併して4年目を迎えます。職員一人ひとりが、どのような厳しい状況の下でも、「市役所は市民のためにあり、私たちは市民の公僕である」ことを認識し、木津川市の担い手として、責任と自覚を持って、様々なまちの課題に対応し、まちの魅力を創出してまいります。

組織の明確な目標の下、熱意と使命感を持って行動することができる人材を育成してまいります。

以上、平成22年度の市政運営の考え方を申し上げてまいりました。

私は、子どもたちが安心して暮らせるまちとは、誰もが安心して暮らせるまちであると確信しています。

「木津川市に生まれてよかった、木津川市に住んでよかった。」と思ってもらえるよう勇気と知恵と工夫をもって、この状況に挑戦し、未来の子どもたちにバトンをつないでまいります。

どうぞ、議員の皆様、市民の皆様、引き続き、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。